

白石地区連合町内会「札幌市防災表彰」を受賞

白石地区連合町内会 総務部長 木村 幸男



市長から表彰状を受ける黒澤会長



宮川区長を囲んで関係者の方々

1. はじめに

去る1月15日(金)北海道経済センターにおいて「平成21年度札幌市防災表彰式」が行われ、白石地区連合町内会は白石区を代表して「平成21年度札幌市防災表彰」を受賞しました。

当日は黒澤昌保会長をはじめ、防災関係者が多数出席し、受賞の喜びを共に分かち合いました。

2. 21年度の主要事業は防災マップ作り

平成21年度、白石地区連合町が実施した一番の主要事業は、DIGの開催と防災マップ作りでした。

この事業の実施に当たっては白石地区連合町の防災防火部、ネットワーク協議会の防災部会、福祉のまち推進センター等の団体を中心となり、連合町に加賀副会長を中心に関係団体が総力を挙げて取り組んできた事業です。

白石地区には23の単位町内会があり、一斉に実施することはあまり効率的ではありません。そこで、昨年の6月から中央ブロック(5単町)、本通ブロック(5単町)、共栄ブロック(6単町)、南郷ブロック(7単町)と順を追

って実施してきました。

DIGの実施、町歩き、防災マップの作成、災害時の要援護者と支援者の募集等が一連の作業の流れでした。

3. 自然災害の恐ろしさを実感

このたびの地球の裏側、南米チリの大地震がその一日後1万8千キロも離れた我が国の太平洋岸に津波となって押し寄せるというニュースは、あらためて自然災害の恐ろしさを我々に知らせてくれました。

チリで起きた地震による津波の日本列島襲来は50年前にもあったと報道されています。

4. 今後の課題

平成21年度白石地区連合町が取り組んだ事業に対し、札幌市から表彰を受けたことはまことに喜ばしいことです。

しかし、我々はこれで満足することなくこれからも万一の災害の発生に対し、地域住民の防災意識の高揚を図り、災害時の支え合いの精神を浸透するなど、この事業をさらに深化させる努力を続けなければなりません。